

経済協力セミナー第 27 回

熾烈化する国際競争と企業投資

講演者：大橋祥正氏

国際協力銀行 産業ファイナンス部門 西日本オフィス次長

文責：永井哲平

草案作成：小林奈那 酒徳結 増村みかり

岩田友里奈 平山伸弘 松浦宇史

栗原萌 土永恭子 祝井谷有花

島田潤一 森田麻文 柚木涼佑

津郷彩 小島万奈



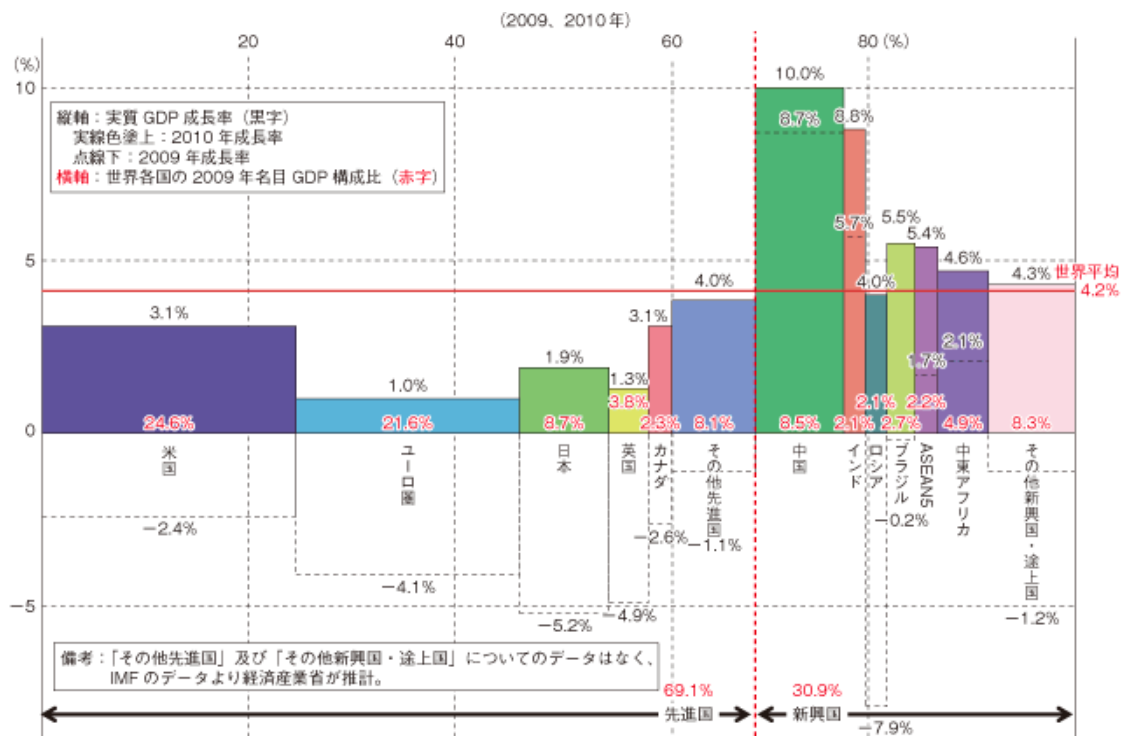
大橋氏は、1988年3月に京都大学経済学部を卒業され、同年4月より日本輸出入銀行(現JBIC)に入行した。1991年には、経済協力開発機構(OECD)に出向。さらに1991年、海外経済協力基金(OECF：現JICA)に出向。1999年、パリ駐在を経て2003年に大阪支店融資第2班課長を務めた。2008年に審査部第3課長に就任し、現在は産業ファイナンス部門において西日本オフィス次長兼西日本第2ユニット長、西日本総務ユニット長として活躍している。講演では、国際協力銀行の紹介DVDのあと、今回の講演では“世界を取り巻く状況”“Corporate Finance”“各種事例の考察”を説明がなされた。

1. 世界を取り巻く状況

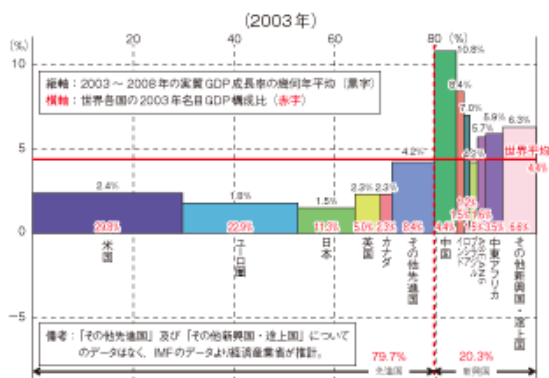
■世界各国のGDPについて

2003年からの新興国のGDP成長率の伸びと比例して、世界における新興国のGDP割合も増加している。しかし、先進国では今後大きな成長は無いと考えられている。2015年には世界全体のGDPの38.8パーセントを新興国が占めると予想されている。今後は、アジア・中国中心の世界経済圏が成長するのは明らかであるが、このような中

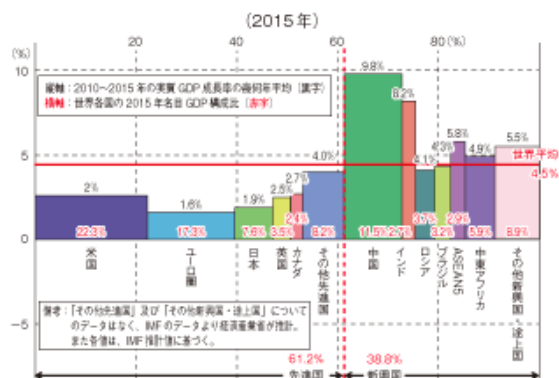
で、日本がどのように対応していくか考えることが重要である。それに対して、先進国は2003年時点でGDP全体の約8割を占めていたが、2015年には約6割程度に落ち込むと考えられている。



資料：IMF [World Economic Outlook, April 2010] から作成。



資料：IMF [World Economic Outlook, April 2010] から作成。



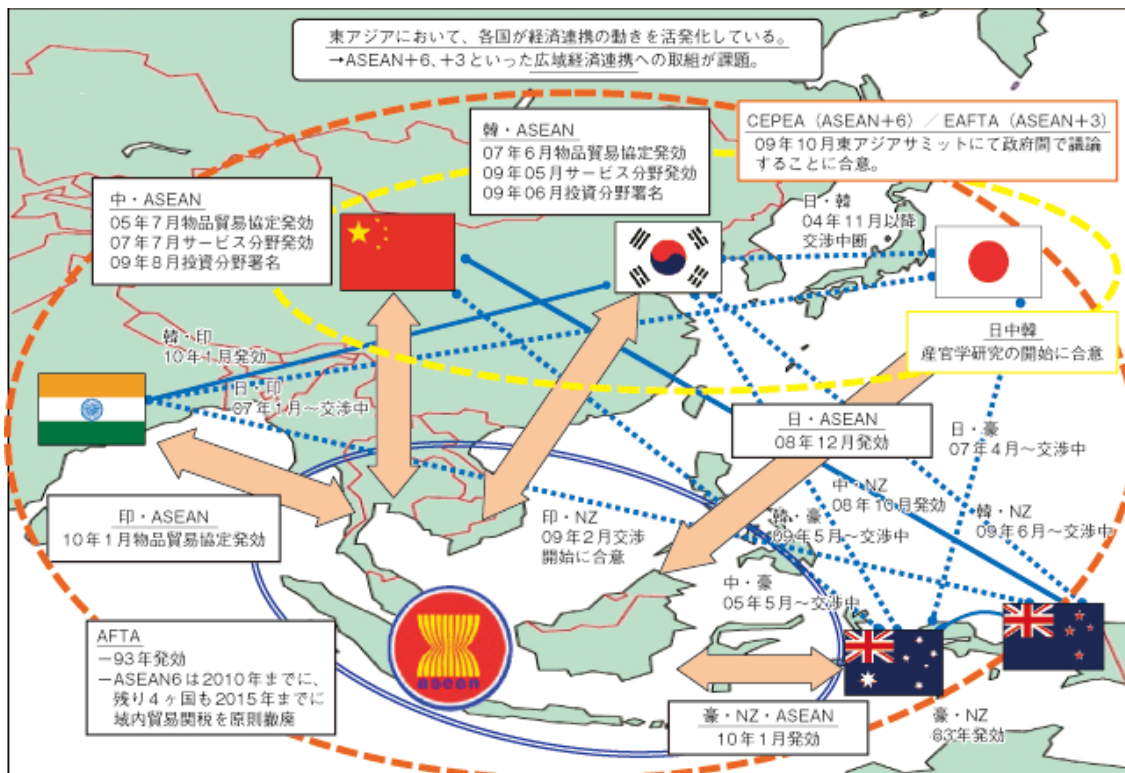
資料：IMF [World Economic Outlook, April 2010] から作成。

■ 直接投資について

直接投資は経済成長を誘発し、1国の経済に大きな意味を持つ。ASEAN という名前の通り東南アジア諸国の経済や文化等を始めとする地域協力機構にも関わらず、投資の割合は東南アジア以外の欧米諸国が大きく占めている。最大の投資国である日本が東南アジアとの関係強化に尽力している事が分かる。

■ 経済連携について

経済のグローバル化を背景に、東アジアでは域内貿易依存度が大幅に高まるなど、相互依存関係が増大している。また、ASEAN+6 や+3 といった広域経済連携への取組が課題となっている。こうした中で、現在成長が著しい中国との経済連携の強化は今後の ASEAN の成長を大きく左右する要素となるだろうと思われる。



資料：経済産業省作成。

2. Corporate Finance

■ Corporate Finance と Project Finance

企業への投資には2種類あり、Corporate Finance と Project Finance がそれぞれである。まず Corporate Finance は、その会社の信用力に応じて会社へ融資するもので、担保としてその会社の一般資産があてられる。企業が資金を返済できなくなった場合はその会社の信用力に基づいて返済する。一方、Project Finance では企業のあるプロジェクトそのものに、そのプロジェクトの成功の可能性や予想される利益に応じて、当該プロジェクトの契約や資産を担保が融資されるものである。これが履行されなかった場合は当該プロジェクトの資産や利益から返済する。

■ 企業の着目点

- ・証券会社と銀行の違いについて

証券会社は企業の株価が上がるかどうか、つまり企業の成長性を見ているのである。

一方銀行は企業に融資した資金が返ってくるかどうか、つまり安定性や確実性を見ている。それををはかるために信用力審査が行われる。次にその信用力審査について触れる。

- 信用力審査のポイント

信用力審査のポイントは定性分析と定量分析の二つがある。まず定性分析は、会社や事業を様々な点から評価し審査するもので、定量分析は対象の会社の財務体質を中心に分析し審査するものである。

- 銀行のスタンス

融資する際、銀行は貸し倒れを防ぐため原則として担保をとるが、融資先の企業の信用力が高い場合は担保留保の措置をとるなど対応に変化もみられる。

- 信用力向上のために

信用力を向上させるには、毎年利益を積み重ねることや、得意分野を活かした経営をすることで財務体質を向上させること、そして複数の銀行との取引を維持することが必要である。

- **Covenants Finance** について

Covenants Finance は海外企業への融資が拡大していることから近年増加傾向にある。これを採用することで、業績悪化の早期発見につながり、ひとつの経営指標にも成りうる。最近財務制限条項の管理を一本化したのが、これを緩和もしくは撤廃しようという動きが良い業績を出している企業のなかで出始めている。**Covenants Finance** は融資した資金がきちんと返済できるようにするためのものというよりは、銀行と企業が連絡をとりあい融資について適切に管理するためのものである。

講演中には講演者から学生への問いかけが多くなされ、**JBIC** や国際経済に意識の高い学生にとって、非常に刺激的であり、貴重なものであった。時間の関係で、講義内での質疑応答は限られてしまったが、その後自主的に質問をしにいく学生の姿も多く見られ、関心がおおいに高まったことがうかがえた。